

「リサイクルで地球を守る」

さいたま市 四年 榎本 雛（えのもと ひな）

「これは、ゴミではありません!! 大切なしげんなんですよ。」

リサイクル・プラザJBのお姉さんが、空きかんやペットボトル、ビン指さして言いました。

私は最初、自動販売機の横にある箱は、「ゴミ箱」だと思っていました。でもそれは、「しげん回しゅうボックス」なんだと知りました。空きかんや、ペットボトルやビンがリサイクルされるといふことは、学校でも習っていましたが、実さいに、どんなふうになっているのか、とても気になっていました。

それで、夏休みに、お母さんと弟と、リサイクル・プラザJBの見学に行ってみる事にしました。中に入ると、目の前に、見た事ない位たくさんのカンやペットボトルが、山の様にあっておどろきました。最初、案内してくれるお姉さんが、きれいな白い部屋で、リサイクルの話をしてくれました。その後、さっき見た空きカンなどの山の前に行き、お姉さんの説明を聞きながら、そこからリサイクルされていく様子を、順番に見ていきました。

工場の中に入ると、大きな音がびびいていました。そして、話が聞こえない位の音がひびいていました。そして、暑くて、においもする中で、一生懸命作業している人たちを見て、大変そうだなと思いました。

「回しゅうボックス」に、カン、ビン、ペットボトル以外の物を入れる人がいるせいで、手作業で、取りのぞいているのだそうです。私は、みんながきちんとはべつして入れたら、こんなに大変な作業をしなくてもよくなるのと思いました。その後も、やいたり、こまかくくだいたり、すりつぶしたり、いろいろなきかいの中をおって、すり

サイクルされて、材料に生まれ変わります。
それはたまたまのバックやお皿へびんは新しいビンになるのです。その中でも、私がおどろいたのは、ペットのボトルから、タオルやぬいぐるみができることや緑色のビンがアスファルトやタイルになることです。工場の見学と説明を聞いて、飲みものを買って飲んで、いるんだと分かりました。サイクルの「輪」の中に地球のかぎりあるし、げんを使って、いろいろな物をつくる事ができるけれど、なくなってしまうたら大変です。
だから地球に住む私たち一人一人が、協力し合って、地球を守りたためにも、リサイクルは大切なことなんだとわかりました。
これからは、私も、リサイクルできるものの分べつなど、自分にできることをやっていきたいと思えます。